



The Rotary Club of Yahata West Japan

WEEKLY REPORT



2018.8.24 NO.2471

八幡西ロータリークラブ



BE THE
INSPIRATION
インスピレーションに
なろう

2018～2019年度
会 長 岩崎 員久
副会長 岸野 玲
幹 事 有松 稔晃

《会報委員会》
福田 学 高嶋 雅樹 坂本 敏弘
中村 克己 江崎 嘉春 溝上 智彦
貞方 友明

例会場・事務局 北九州市八幡東区西本町1-1-1千草ホテル
TEL093-681-0694 FAX093-681-0984
例会日:毎週金曜日 12:30～13:30

RID2700地区岡野正敏ガバナーメッセージ
— 寛容と思いやり そして和の心 —
八幡西RC岩崎員久会長メッセージ
「元気になろう!! 八幡西ロータリークラブ」

次回例会のお知らせ 8月31日 "クラブフォーラム:地区委員会の活動"
地区職業奉仕委員 神尾康生・国際青少年交換委員 三島靖男 の諸君

本日の例会 2018年8月24日(金)

1. ロータリーソング "奉仕の理想"
2. 来客紹介
3. 出席状況の報告
4. 会長の時間
5. 各委員会報告
6. ニコニコボックスの報告
7. 幹事報告
8. 卓 話「新会員の自己紹介」
川越和宣・藤本生男・吉田浩二の諸君

ポールハリスフェローバッジ授与
坂本 敏弘 君



前例会の記録 8月17日(金)

出席報告 例会食事カロリー 750Kcal
 会員数 53名
 ・当日の出席者数 38名
 ・ゲスト数 1名
 会員出席率 74.51%
 ・7月13日の修正出席率 92.16%
 ゲスト:<スピーカー> 高坂 圭 様

7月度 100%出席皆勤表彰者
吉田総次郎 君 27年



会長の時間 会 長 岩崎 員久

お盆の間、皆さんゆっくり過ごされたことと思います。
いま甲子園では、連日高校球児が熱戦を繰り広げています。残念ながら、折尾愛真と沖学園は惨敗してしまいましたが、これまでの試合で特に印象深いのが、12日の星稜(石川)対 済美(愛媛)の試合です。当日の試合は某所でテレビ観戦していました。星稜優位の試合が、逆転に次ぐ逆転のシーソーゲームでタイブレイクに纏れ込み、13回表の時点で11-9、誰しも、星稜が勝ったと思いましたが、裏、無死満塁で矢野 功一郎君の大会史上初の逆転サヨナラ満塁ホームランで済美が熱戦を制しました。済美が勝利した瞬間、私の周囲にいた人々が一斉に立ち上がり狂喜乱舞していました。中には抱き合っ泣いている人もいました。これが郷土愛なんだと思い、試合もさることながら周囲の光景に鳥肌が立ちました。たとえ負けていても最後まで諦めるなという事を教えられた試合でした。ちなみに私がテレビ観戦していた場所は、松山空港の待合室でした。

委員会報告

雑誌委員会 委員長 福田学君

ガバナー月信の読みどころを紹介しします。
月信のP8～9に岡野ガバナー諮問委員会議事録が記載されています。その中で気に入った記事はP9の右3つ目の黒丸、地区大会の運営費用を人头割りとし会費(分担金1人5000円が10000円となり、登録料はなくなるそうです。

幹事報告

幹 事 有松 稔晃

反社会的勢力の関係者でないという書面に、署名をいただく事に理事会で決定しました。署名の提出をご協力の程お願い致します。

卓話「映画作りで学んだ、物語を売る方法」 放送作家 高坂 圭 様



映画を作ろうと思ったきっかけは、八幡東区丸山町を舞台に「坂の上のマリア」という映画をつくっている、東京の瀬木直貴という監督が丸山町に住んで映画作りをしている。という新聞記事を読んで、ショックを受けた事だった。どうしても彼に会いたいと思い、中央町の飲み屋で待ち伏せをした。1週間後、スタイリッシュな女性と現れた。自分は待ち伏せ中それなりに酔っ払っていたため、「あんた坂の上のマリア？」と話しかけてしまった。勿論、初めは相手にしてくれなかったが、話しているうちに仲良くなった。そして、いつか一緒に映画を作ろうという話になった。意外にもそのチャンスは早く来た。新宮にある文化ホールからパンフレットを作ってほしいとの依頼が入った。「千年家」に興味を持ち、瀬木監督の事を思い出し、全国にこのことを広めたいので、映画を作ろうと、館長に持ち掛けた。予算はと聞かれて、監督に尋ねると安くあげれば、1千万と聞き、そう話すと、乗ってきた。それから私は、プロデューサーと脚本家として大変な日々を過ごすこととなった。何しろ脚本を書くのは初めてで、書き方の本を横に置きながら書いたぐらいだった。監督に第1原稿を送ると、流石放送作家は違うとべた褒めだった。少し映画的におかしいところをチェックしておきました。と言われ、喜んで見てみると、全部赤、全部書き直し、13回原稿を提出。OKが出るまで、1年かかりました。脚本を読んで、丹波哲郎、吉行和子、鶴見慎吾、サクソ奏者の渡辺貞夫など、結構な人が出てくれるようになった。丹波さんは、霊界映画と褒めてくれ、通常は1千万のギャラを、200万で、他の方もそれに合わせて、安くしてくれた。が、結局9千万かかった。この映画は4年かかり完成。新宮では、1万人動員、ベルリン映画祭にも招待された。映画評論家のおすぎさんは、新宮を訪れて、だまされたと言っていた。2本目の映画は、久留米を舞台に、「卒業写真」津田寛治と羽田美知子さんに夫婦役をやらしてもらいました。プロのカメラマンが癌になり、人生を卒業する際に、生まれ育った、街、人を撮り、写真集を出すというストーリーです。3本目は、「ガチ星」江口カン監督に出会い、彼の才能に惚れ、プロ野球選手が競輪選手を目指す、小倉を舞台にした映画を作った。この時も徹底的に取材をし、競輪にかける男たちの生き様を物語にした。おかげでこちらも今、全国単館ロードショーという形で広がっている。そこで私は思った。街をセールスするのに映画は有効なツールである。さらに物語を売れば、モノは売れるのではないかと。そう考え、映画作りを久留米、小倉と続ける中、物語プランナーとして新しいビジネスも始めた。これは元々、東京の川上徹也という方が提案したことなので、彼にメールし、自分の話をし、この物語マーケティングをビジネスにすることの了承を得た。では、実際どうするのか。映画を作る作業と全く同じ。舞台になる土地をロケハンし、取材するように、「千年火」では、全国の火に関する祭りを観て回り、それらを組み合わせ、新しい祭りを提案した。先日、北九州のあるうどん屋に入った。メニューを見ると、その裏に店主のことが載った新聞記事があった。

何気に読むと、そごうが潰れた時にいた、アパレルの社員。何十年と積み重ねてきたキャリアが、一気に崩れ、絶望的になった。そんな時に食べた、一杯のうどんが余りにも美味しく、元気になった。「これだ」と思いその店の主人に弟子入りをし、修行の末、うどん屋を開いた。小さくてもいい、来てくれるお客様一人一人に、目の届くまでなしと、美味しいうどんを作っていきたい。そう思い妻と二人で頑張っている。最近、収入もそごう時代に戻った。これを読んで食べたうどんの美味いこと。多分、ストーリーと一緒に食べているから、普段の味以上感じた。もう一つ例に挙げると、平成3年、津軽地方を襲った大型の台風のおかげで収穫前のリンゴが9割方被害を受けた。農家の人たちは打ちひしがれ、絶望的になった。そんな時、若手のリンゴ農家経営者が落ちなかった1割のリンゴに目をつけ、「落ちないリンゴ」と命名し、全国の神社で、縁起物として販売したところ大ヒットとなった。物語を売るという事は、こういうことだ。どんな人にも、会社にも、商品にも、丹念に取材をすれば、物語はきつとある。それを映画を作るように表現していけば、感動や共感を得られ、モノが売れる。いつの間にか映画作りを通して、ビジネスモデルを構築することが出来た。現在、料亭グループや、別府の高級リゾートホテルグループなどで、物語プランナーとして活躍させてもらっている。自分の小さな部屋で書いたセリフを、大きなスクリーンで、あの丹波哲郎や、吉行和子がしゃべっているのを初めてみた時、映画は魔法だと、自分の小さな力が監督、スタッフ、俳優さんと色んな力が重なり、100倍にも10000倍にも膨らむと思った。今中津で新しい映画を作ろうと脚本を書き始めた。私は映画は勿論のこと、自分の物語力を信じ、これからもいろんなものに物語を吹き込んでいきたいと思っている。

IDMのお知らせ

- | | | | | |
|----|----------|-------|----|-------------|
| A班 | 8月30日(木) | 19:00 | 場所 | Labo割烹MONDO |
| B班 | 9月4日(火) | 19:00 | 場所 | 千草ホテル |
| C班 | 9月5日(水) | 18:30 | 場所 | わざわざ |
| D班 | 8月29日(水) | 19:00 | 場所 | わざわざ |
| E班 | 8月31日(金) | 19:00 | 場所 | すし天や |

【ニコニコボックス】

- ・本日の卓話者 放送作家 高坂 圭様を歓迎して
小嶋、松尾、伊豆、井口、岩崎、浜崎、江戸、山口、安東、江崎、正木、稲富、井上、藤村、大林、有松の諸君
- ・大林さん、柳野さん、陣中見舞い有難うございました。
お陰様でたくさん売れましたが、暑すぎてもう来年はしたくありません。 村山君
- ・お盆休みに涼しい、カナダ、バンクーバーに行ってきました。
帰国後の日本の暑さに参っています。 谷君
- ・初盆のお参り有難うございました。 高嶋君
- ・早退のお詫び。 坂本君